

牛深沖に並ぶクロマグロの養殖いけす。右上は牛深町中心部=天草市（2008年12月撮影）



天草市牛深沖で水産加工プリミー（同市楠浦町、濱忠臣社長）が量産化に取り組む完全養殖クロマグロの出荷が進んでいる。天然マグロの世界的な漁獲規制が加速する中、昨年11月に対米輸出を試験的に開始。アジアや欧州への輸出も計画しており、天然マグロの代替需要を狙って「天草産マグロ」を世界に売り込む。

（原大祐）

## 水産加工「プリミー」

# 完全養殖 天草マグロ 世界へ

5日、同市久玉町の港。駆けて生産技術を確立した米国向けの完全養殖マグロ 人工ふ化からの完全養殖マグロが、氷を詰めた容器から顔グロの稚魚1500匹を、重さ約40キロとやや小ぶり。仕入れた。外部民間企業として初めて

「米国では60キロ超が求められるが、視察に来た現地の代理人からすくなくてもほし」と頼まれて。養殖を手掛ける同社のグループ会社 福吉魚類の濱浩司専務がほほ笑んだ。 近大水産研はその後、総代理店に双日など5社に稚魚を販売してきたが、出荷サイズまで成長した完全養殖マグロを保有するのは「世界で、近大とプリミーグループだけ」（近大水産研）だ。

■資源を守る  
プリミーと福吉魚類は2007年、近畿大水産研究所（和歌山県）が世界に先

■保護望む声  
一方、マグロ資源の保護を望む声は年々高まり、世界的な漁獲規制を加速させている。国際的な資源管理機構が

マグロを扱わないよう、飲食店などに圧力をかける事態も発生。 半面、人工ふ化の完全養殖は「資源を守るマグロと

## 漁獲規制受け輸出強化

12年の生産  
年間7000匹



米国に輸出するために水揚げされた完全養殖クロマグロ  
|| 天草市久玉町

09年11月、世界最大級のクロマグロ漁場の東大西洋と地中海の漁獲枠を大幅削減。3月のワシントン条約締結会議で、同海域のマグロの国際的な商取引を全面禁止する提案も出さうだ。 だが、世界一のマグロ消費国・日本の市場は「魚食離れに景気低迷が重なり、冷凍在庫が多く下落傾向」大。09年だけで約9千匹の稚魚を仕入れ、1万匹を超える完全養殖マグロを天草の海で育ており、12年には年間7千匹の安定供給を目指す。 海外への拡大戦略も描き、今月末にニューヨークで飲食店向けの展示・商談会を開いて東海岸の販路を開拓し、香港などアジアへの試験販売も推進。欧州輸

